

学校保健

(題字は元北海道学校保健会会長 吉田 信)

発行

公益財団法人北海道学校保健会
札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館5F

☎(011) 221-5240



「年頭にあたって」

北海道学校保健会 会長
北海道医師会 会長

長瀬 清

新年あけましておめでとうございます。初春を迎えるにあたって、ひと言ご挨拶申し上げます。

日頃より、学校保健・学校安全にご尽力をいただいている皆様方に、心より敬意と感謝を申し上げます。

昨年は2年ぶりに日高管内新ひだか町において、第65回北海道学校保健研究大会を開催することが出来ました。開催にあたって多くの関係者の皆様にご尽力頂きましたことをこの場をかりてお礼申し上げます。また、今年は空知管内砂川市におきまして、第66回北海道学校保健研究大会を開催する予定です。多くの学校保健関係者の皆様のご参加を期待しております。

今日、社会環境の急激な変化、人々の日常生活様式等の変化が、成長期の子どものたちの「こころ」や「からだ」の健全な発達に様々な影響を与えております。とりわけ、薬物乱用、性の逸脱行為、肥満や生活習慣病の兆候、いじめや不登校、メンタルヘルス、アレルギー疾患、感染症など様々な課題が問題になっています。

こうした子どもの健康課題に対して適切に対応するためには、学校における保健教育の充実が重要になってきます。

保健教育は、保健に関する科学的認識を通して、健康の保持増進のための思考力と判断力の育成を

目指す保健学習や、日常の具体的問題に即した実践的能力や態度の育成を図る保健指導を中心に進めていく事になるのですが、保健学習の時間についてはそれぞれの学年でおおよその時数や内容が決まっているようです。一方、保健指導の方は当面する健康問題を中心に各学校が指導内容を設定することができ、時間や内容に巾を持たせられることから、保健学習との関連を十分に考えながら、計画的・継続的に進めることが大切です。

ただ、健康課題として学校で取り扱わなければならない内容は増える一方です。従って、それぞれの学校においては、児童生徒の実態や地域の実情を十分に考慮し、保健学習や保健指導だけでなく、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間との関連を考えながら、総合的に取り組む必要があります。

そして、学校における保健教育を進める上で一番重要なのは、学校だけでなく保護者や地域、そして関係機関を巻き込むような取組を考えていただきたいと思います。

本年も学校・家庭・地域社会の関係者と三師会はじめ関係機関が英知を結集し、強力な連携のもとに児童生徒の健康・安全の保持・増進に努めて参りますので、ご支援・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

目次

○巻頭言 「年頭にあたって」	
北海道学校保健会会長 北海道医師会会長 長瀬 清	1
○第65回北海道学校保健研究大会 日高（新ひだか町）大会の報告	2
○第37回北海道学校歯科保健研究大会の報告	4
○保健室シリーズ 「一人一人の健康をみつめ開かれた保健室をめざして」	
共和町立東陽小学校 養護教諭 木村 敏恵	6

第65回北海道学校保健研究大会日高(新ひだか)大会の報告

平成29年10月1日(日)今年度完成したばかりの新ひだか町総合町民センターを会場に全道各地から220余名の参加を得て「北の大地を生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる子どもの育成を目指して」を大会主題として、～雄々しい山なみと恵み豊かな大海をはるかに望む 若駒駆ける日高の地から 子どもたちの生きる力を育むために～をテーマに開催された。



【第65回北海道学校保健研究大会開会式】

開会式では、久保田達也実行委員長による開会の言葉に続き、北海道教育委員会教育長(代理/中村隆信教育委員)、公益財団法人日本学校保健会会長(代理/弓倉整専務理事)、公益財団法人北海道学校保健会会長が主催者として挨拶を行い、引き続き来賓として、日高振興局長、新ひだか町長が祝辞を述べた。

大会長挨拶に立った、北海道学校保健会 長瀬清会長は、「いきいき すこやか 誰もが主役になれるまち」づくりを目指している新ひだか町の取組をアピールするとともに、

「社会生活の多様化等により、児童生徒の抱える健康課題は多岐にわたる。こうした課題の解決を図り、生涯を通じて健康な生活を営んでいく資質や能力を育成することが、ますます強く求められている。特に、学校におけるがん教育の必要性はますます高まってきている。今や日本人の二人に一人がかかると言われるがんは重要な課題とされ、健康に関する国民の基礎的教養として身に付けておく必要がある。また、北海道は全国的にみてもがん死亡率の高い地域であり、子どもたちのがんに対する正しい知識を持たせるとともに、健康と命の大切さを学ぶことで、自らの健康を適切

に管理するという意識を持たせることが大切となる。」と、学校におけるがん教育の必要性に触れるとともに、

「この後の部会別研究協議では、幅広い分野の方々の日頃の研究や実践に基づいた協議を通して、実りある成果を期待する」と結んだ。

学校保健功労者表彰では、永年にわたる学校保健や学校安全の充実にご尽力された功績を称え、学校医53名、学校歯科医75名、学校薬剤師31名、教職員7名の計166名の方のうち、受賞式に参加された25名に長瀬会長より表彰楯が授与された。受賞者を代表して、札幌市学校医の木村裕氏が「本日のこの受賞を契機に、心を新たにし、本道の学校保健、学校安全の充実・発展に努力致す所存でありますので、今後とも関係各位のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。」と謝辞を述べた。

最後に、30年度開催地の砂川市教育委員会教育長 高橋 豊氏より、大会開催に向けての準備体制整備を進めているとして、多くの参加を期待しているとの挨拶があった。

続いて、『緊急時の子どもの心の反応』と題して、公益社団法人宮城県精神保健福祉協会みやぎ心のケアセンター企画研究部長 福地 成氏による基調講演があった。

福地氏は、以前に北海道で小児科医として勤務され、その後、宮城県にて精神科医として精神科救急、地域精神保健に従事され、平成23年12月より、震災復興に特化した「みやぎ心のケアセンター」に勤務され、この経験を踏まえた講演が行われた。



午後から4つの部会に分かれて、研究協議の視点に基づいた提言をもとに、教職員・PTA会員・医療関係者・学生を交えて協議が進められた。

この度の日高(新ひだか)大会は、新ひだか町教育委員会をはじめ、多くの先生方により実行委員会が結成され、新ひだか町はもとより管内の校長会・教頭会がバックアップ態勢をとり、開催準備・当日の運営等に取り組まれた。

部会別研究協議の概要

第1部会 「学校経営と組織活動」

●新ひだか町立高静小学校

「組織的な学校運営の取組」

●北海道静内高等学校

「本校の学校保健に関わる組織的

取組について」

◆研究の成果と課題

- アレルギー疾患の増加、転倒や衝突によるケガや事故の増加が課題となっている。課題克服のためには、多様化する健康・安全に関する課題へ柔軟に対応するための学校保健委員会のあり方が問われており、学校保健安全計画の見直しや整備が児童生徒の安全安心を確保するための役割を果たすと考え。また、新ひだか町では、フッ化物洗口の実施に向け、町教委、学校医、学校歯科医と十分に連携を取りながら協議を重ね、学校保健委員会を機能させ、校内体制の確立や準備、課題等の集約や改善に取り組んできた。
- 健康・精神面での配慮を必要とする生徒が年々増加している中で、個別対応や専門機関との連携の必要性も高まっている。個人フローチャートを活用し、全教職員が迅速に対応できる体制が整備できた。今後は、作成人数が多くなった場合の役割・業務の分担、多様化に対する研修時間の確保が課題である。

第2部会「保健管理・保健教育」

●浦河町立浦河小学校

「いのちの大切さを自覚し、

健康や安全を守る子を育てる取り組み」

●新ひだか町立静内中学校

「揺れる中学生の自立を目指して」

◆研究協議の成果と課題

- 朝食の欠食率の問題については、前日の夜の過ごし方を改善することが解決に結びつく。生活リズムの確立には、保護者の考え方を変え、それを普及・波及させていくこと、そのための情報発信が大切である。
- 学校全体で組織的に取り組んでいくためには、計画的に研修を進めるなど、共有化を図ることや異校種連携の取組を進めることが大切である。
- 児童生徒が相互に認めあう機会を保障し、繰り返し行うことで、他者を認め、他者から大切にされている自分を自覚することができる。ま

た、教師の児童生徒へのかかわりも影響する。養護教諭を中心にきめ細かな対応が必要になる。

第3部会「安全管理・安全教育」

●新ひだか町立東静内小学校

「関係機関との連携強化による

防災教育実施と防災環境整備」

●新ひだか町住民福祉部生活環境課

「新ひだか町における交通安全対策並びに防犯活動の取組について」

◆研究の成果と課題

- 自然災害に対する安全管理について、日頃から発生時の動きを想定すること、経験や体験から学ぶこと（例：津波てんでんこ）は大事なことである。
- 自然災害に対する安全教育は、学校全体で組織的・計画的な取組になっているかが重要。教職員・児童生徒が入れ替わっても、確実に引き継ぎがされていかなければならない。
- 交通安全の取組は、関係機関を含む地域との連携が重要。町としての取組と学校の安全教育がつながるとより効果的な全体としての取組になる。また、Jアラート発令時の対応等について交流ができたのは良かった。どの学校においても連絡網・文書・ホームページによる保護者への連絡や説明が確実に行われていた。市町村内の学校間で対応の違いがあった場合や下校中の発令時の対応をどうするかが今後の課題。

第4部会「発達障がいを含む障がいのある

子どもの保健教育・安全教育」

●北海道平取養護学校

「本校の感染症対策の取組と課題について」

●北海道平取養護学校静内ペテカリの園分校

「健康診断に対する抵抗感の強い

児童生徒への指導・支援の仕方」

◆研究協議の成果と課題

- 保健・安全教育に関する計画と体制づくりには、保健所との連携（初期対応への有効なアドバイス）、学校保健委員会が日常的に機能すること、病気等の感染者の分離（寄宿舎・送迎バスの対応）、保護者の協力を得ることなどが大事である。
- 支援が必要な児童の健康診断対策（未知なことへの不安感、感覚過敏等）については、掲示物の工夫と疑似体験、検査者との打合せ、指導教材の保管・改良などが大切である。

第37回 北海道学校歯科保健研究大会の報告

平成29年10月20日(金)に、北海道歯科医師会と北海道学校保健会が主催する、第37回北海道学校歯科保健研究大会が、北海道歯科医師会館において、学校歯科医・養護教諭・歯科衛生士・学生・学校保健関係者等多数の参加を得て開催した。



北海道歯科医師会藤田一雄会長は挨拶の中で、「歯科医院や保健所で行う歯科健診や、各家庭で実施するフッ化物配合の歯磨剤を使用した歯みがき、生活習慣や食習慣の改善によりむし歯は減少傾向にあるものの、北海道では未だに多くの子どもたちがむし歯にかかっているのが現状です。

このようなことから、北海道歯科医師会では、北海道、北海道教育委員会と提携し、むし歯予防に高い効果があるフッ化物先口を推進しております。

フッ化物は安全で効果的なむし歯予防の一つで、子どもたちの口腔保健向上に大きく寄与できるものと考えております。」と述べたのに続いて、来賓の北海道教育委員会 柴田達夫教育長の代理として祝辞を述べた岸小夜子学校教育局指導担当局長は、「北海道においてはむし歯を有する子どもの割合が、年を追う毎に小学校、中学校、高校において何れも減少傾向にあります。全国と比べると依然として高い状況にあります。歯や口の働きは、食べ物をよく噛み味わい美味しく食べること、人と豊に話すこと等、日々の生活の楽しさや豊かさに深く結びつき、生涯を通じて健康な生活を送る基礎となることから、北海道教育委員会では本道の子どもの歯と口の健康づくりを進めることは重要な課題であると考えています。歯科医師会や道の健康福祉部と連携し、北海道 歯・

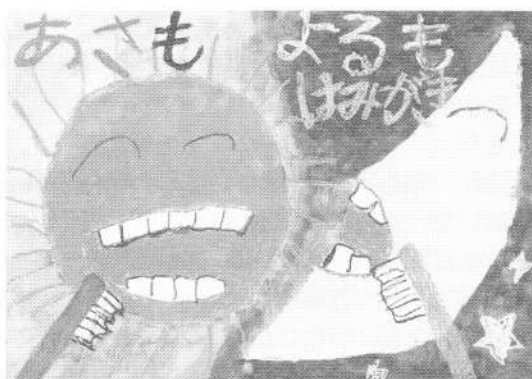
口腔の健康づくり8020推進条例に基づき、児童生徒のむし歯予防に効果のあるフッ化物先口の取組を促進しています。」と語り、学校におけるフッ化物先口の更なる推進を訴えた。

続いて、平成29年度北海道歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール受賞作品の表彰を行った。全道174校から寄せられた6,853点の作品の中で二次審査に残った160点から2名に北海道知事賞として、表彰状と記念品を授与した。

◆北海道知事賞

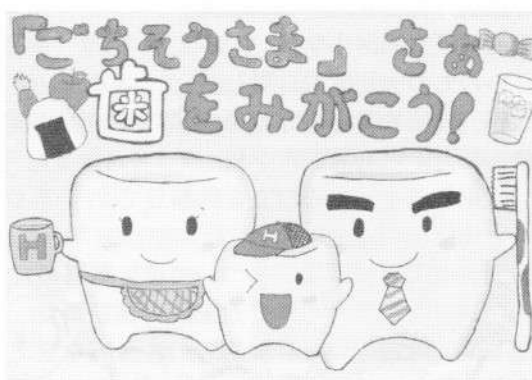
【低学年の部】

北広島市立東部小学校2年 池松 宏二郎



【高学年の部】

北広島市立北の台小学校5年 山下 凜



他の受賞者は次の通りです。

◆北海道教育長賞

小樽市立望洋台小学校3年	茸 平 菜 花
旭川市立春光小学校3年	笠 原 吹
釧路市立中央小学校5年	仲 谷 瑠 花
稚内市立潮見が丘小学校6年	籠 戸 ことみ

◆HBC賞

白糠町立庶路小学校 3年	浅 利 真 弥
室蘭市立喜門岱小学校 3年	大 崎 政 実
釧路市立愛国小学校 6年	佐 藤 都 月
小樽市立桜小学校 6年	上 川 莉 歩

◆北海道新聞社賞

留萌市立緑丘小学校 2年	渡 辺 結 衣
美唄市立中央小学校 3年	長谷川 慧 佳
北広島市立東部小学校 5年	池 松 隼之介
稚内市立潮見が丘小学校 4年	小山田 蒼

◆北海道歯科医師会長賞

根室市立成央小学校 1年	渡 部 咲 桜
旭川市立神居東小学校 2年	山 本 千 代
北広島市立北の台小学校 5年	佐々木 花 奈
千歳市立駒里小学校 6年	増 渕 玲 那



表彰をうける山下 凜さんと池松宏二郎さん

◆佳作

札幌市立白石小学校 1年	佐々木 乃 愛
旭川市立台場小学校 1年	田 中 綾 乃
旭川市立啓明小学校 2年	西 山 匡 人
滝川市立滝川第一小学校 3年	加 藤 奏 来
滝川市立滝川第一小学校 3年	山 崎 泰 知
小樽市立幸小学校 1年	小山内 一 華
小樽市立望洋台小学校 3年	小 樽 ま る
美幌町立美幌小学校 3年	石 橋 伸 悠
室蘭市立旭ヶ丘小学校 1年	坂 本 天 心
伊達市立伊達小学校 2年	小笠原 依 音
北海道教育大学附属釧路小学校 1年	
	廣 瀬 結 子
中標津町立中標津東小学校 2年	
	上 野 暁 太
余市町立大川小学校 2年	土 居 環 大
苫前町立苫前小学校 1年	長 嶺 樹 莉
苫前町立苫前小学校 1年	佐 藤 風 音

留萌市立留萌小学校 1年	安 井 美彩菜
苫小牧市立豊川小学校 2年	大 鳥 真 琴
千歳市立泉沢小学校 3年	渡 辺 蘭
札幌市立定山溪小学校 4年	多 田 樟太郎
札幌市立定山溪小学校 4年	山 内 瑞 希
札幌市立白石小学校 5年	後 藤 優 渚
函館市立北昭和小学校 4年	松 井 智 也
旭川市立春光小学校 4年	田 村 真 白
旭川市立春光小学校 5年	笠 原 咲
芦別市立上芦別小学校 6年	乾 せりな
奈井江町立奈井江小学校 5年	松 本 湖 子
小樽市立朝里小学校 5年	樋 口 愛 梨
小樽市立緑小学校 6年	小 川 奈 々
北見市立中央小学校 6年	松 盛 琉 華
音更町立鈴蘭小学校 4年	斎 藤 桃 子
伊達市立黄金小学校 4年	清 野 萌 花
伊達市立東小学校 4年	渡 辺 みなみ
登別市立登別小学校 6年	伊 藤 大 輝
稚内市立宗谷小学校 4年	岩 本 苺 果
美唄市立中央小学校 6年	五十嵐 晴 琉
恵庭市立恵庭小学校 5年	宮 原 詩

引き続き、北海道学校歯科保健優良校の表彰式を行った。優秀賞には旭川市立神居東小学校、札幌市立定山溪小学校、登別市立登別小学校の3校が、

HBC賞には、札幌市立新琴似北小学校、札幌市立東札幌小学校、札幌市立定山溪中学校の3校が、奨励賞には、苫小牧市立若草小学校、根室市立厚床小学校、旭川市立豊岡小学校、厚沢部町立厚沢部小学校の4校が選ばれた。

この後、北海道教育大学札幌校准教授 前上里直先生による「ヘルスプロモーションと学校保健教育」、北海道医療大学薬学部実務薬学講座講師の中山章先生による「薬の基礎知識と学校における薬品管理」についての講演が行われた。



北海道教育大学札幌校
養護教育専攻 准教授
前上里 直 氏



北海道医療大学薬学部
実務薬学講座講師
中 山 章 氏

保健室シリーズ

「一人一人の健康をみつめ 開かれた保健室をめざして」

共和町立東陽小学校

養護教諭 木村 敏恵

1 はじめに

本校は、国道に面しながらも木々の生い茂る豊かな自然に恵まれた環境にあります。普通学級6、特別支援学級1の計7学級に、全校児童が106名在籍しています。身体を動かすことが大好きな児童です。休み時間には、体育館や広い校庭で学年を超えて元気いっぱい遊んでいます。

本校の教育目標は『体をきたえる元気な子ども』

『がまん強くやりぬく子ども』『よく考え学びあう子ども』『明るく思いやりのある子ども』です。

学校経営方針のもと、保健室経営の実践計画にその要素を位置づけています。今年はこれまで継続してきた、「開かれた保健室づくり」に『元気』『やりぬく』『学びあう』『思いやり』に焦点をあて、学校・家庭・地域・関係機関のつながりを大切にした実践を意識しています。

2 『元気な子ども』への取組

①健康観察の重視

朝の教室での巡回において、何気ない挨拶や声かけから、子供の心身の健康状態を見取っています。マスクの着用や姿勢、挨拶の声の力などから感じ取れるものがあり、前日との変化など、個別の情報を日常の健康観察と合わせて、担任の先生はもちろん全ての先生たちとの情報連携に役立てています。

②健康ファイルの活用

子供が保健室に来室した時には、状況に応じて質問シートによる調査を実施しています。「睡眠に関すること」と「心身に関すること」の2種類を使用しています。

一人一人の健康状態を継続的に把握するために、個人ごとにファイルを作成し蓄積しています。先生と情報を共有し、諸問題の解決の糸口として活用しています。現在の傾向として、食習慣の乱れ・

睡眠の質の問題・虫歯や歯茎の問題・視力低下とゲーム時間の長さからくる心身の不調等の課題があります。

③保健調査票の活用

保健調査票は、新入生は1日入学時に、在校生は3月に配布しています。食物アレルギーなどの状況を把握し、新年度すぐに対応できるようにしています。また前年度との比較により変化や不明な点があるときには、担任とともに保護者との丁寧な対応に当たっています。

健康課題児童一覧を作成し、教職員に周知しています。年度途中でアレルギー症状など変更がある場合には、その都度お知らせしています。

保護者向けには、保健調査票とともに、各健診前の問診や質問事項などの記入用紙を配布しています。実施後は、昨年の様子と比較しながら、結果を質問事項に対する返答とともにお知らせしています。

3 『やりぬく子ども』への取組

①歯科指導の工夫

長期休業中には、歯みがきカレンダーを発行しています。児童が、歯みがきの結果ごとに色塗りをして、感想も記入します。さらに良かったことについての保護者の記入欄も設けています。その後学校へ提出し、養護教諭よりやる気が出そうな一言を記入して評価しています。

歯みがきカレンダーの配布前に朝の会を活用し、低学年は「歯みがきの紙芝居」、中学年は「歯に関するクイズ」、高学年は「視聴覚教材を活用した指導」を行っています。

②外部講師による歯科指導の実施

昨年は全校児童を対象に「歯科医による歯のお話」を実施しました。

今年度は、1・2年の学級ごとの歯科健康教育を実施しました。歯科医が、歯垢をとって顕微鏡でミュースタンス菌の動くところをリアルに見せたところ、「動いている」「何だろう」等の驚きの声上がり、効果的な導入となりました。

その後、染め出し液でよごれを確認し、歯科衛生士さんによるブラッシング指導をしていただきました。



児童の感想

- ・「ミュータンスきん」がいて、はがとけることがわかりました。
- ・いろいろなところによごれがついているから、きちんとみがこうとおもいます。
- ・あんなによごれがついているって、しらなかったです。

4 『学びあう子ども』への取組

①食育指導の充実

共和町の主な産業は農業であり、稲作・芋・南瓜・とうもろこし・ブロッコリーの他にスイカ・メロン等、「らいでん」の名前がつき、ブランドとして確立しています。

学校経営方針には「共和町の特色を生かした食育の推進」が明記され、具体目標として「食育推進に関わるPTAの協力」と示されています。

今年度から、栄養教諭が本校に所属となり、給食目標をはじめ食育活動を進める上で相談しながら計画を立てています。

これまで短時間であった栄養教諭による食育授業を、今年度からは各学級1時間で実施しました。

また給食時には栄養教諭とともに教室に入り、給食の様子を見てもらっています。

②交流給食の実施

異年齢での交流は、掃除の時間や遊び等で実施していますが、さらに食事を共にすることで豊かな会話や助け合う気持ちを育てるために異年齢による給食を企画しました。

おもてなしの心で張り切って盛り付けをしている様子が見られました。また、いつもより食が進み、完食をした子供も増えました。組み合わせは、1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生です。

事前学習として、配膳の仕方や箸の持ち方などのプリントを作成して確認をしました。自分ができることを、相手に伝えたり教えたりする取組です。

「もう一度交流給食をやりたい」との要望が数多くあり、3学期は組合せを変えて交流給食を計画しています。



③保護者への食育の啓発

参観日の日に合わせて、保護者の給食試食会を

年に2回実施し、食習慣をテーマに家庭と連携して子供の健康を考える機会としています。

また、給食時間に学級訪問をしたり、食に関する座談会を設けたりしています。

昨年度からは、より関心を高めるために、調理実習を行いました。「プチクッキング」と称し、給食の献立の中から、

1品を実際に調理するという企画です。保護者の希望を集約し、一番要望の多かった献立を取り上げました。そして、その日の給食を試食し、子供の話や食事の話へと広げることができました。



保護者の感想

- ・家庭で食べている食事よりも大分塩分が少なく感じました。試食会の食べ物はおいしかったし、切り干し大根をうるかすことなく作れることが分かって良かったです。
- ・野菜を多くしたいのですが、メニューが思い浮かびませんでした。どうしてもワンパターンになりがちなので、こういう場に積極的に参加して、メニューを増やしたいと思います。
- ・「プチクッキング」を、継続していくと良いと思います。

④保護者への健康意識の啓発

参観日などでは保健室を開放し、お子さんの健康相談活動と呼び掛けてきました。さらに「ほがらかひろば」と称し、保護者自身の健康意識を高めようと、「健康チェックコーナー」「体力診断コーナー」「肩こり解消コーナー」として測定機械を期間限定でホールに設置しました。リラックスして話し合える機会となり、保護者にとって、食事や家族の健康の悩み等にも発展して語り合う場とすることができました。



保護者の感想より

- ・測定したら、握力が落ちていたので驚きました。
- ・「ほがらかひろば」の取組が良かったです。とても役に立つ内容でした。

- ・次回も参加したいと思います。なかなか測定する機会がないので、楽しいです。
- ・肩こりがひどいので困っています。血圧を測れてよかったです。

5 『思いやりのある子ども』への取組

①児童会保健委員会による美化活動の充実

お花を取り入れた、美化活動を進めています。前期の保健委員会で、学校の花壇に種を蒔き、育ったお花を校内に飾ったり、押し花にしたりするとともに、それを健康ポスター作成に活用しています。



後期の保健委員会は、その押し花を利用してしおりづくりをしています。学芸会に来ていただいた方へ一人ずつ声掛けをしながら、しおりを手渡しする活動をしています。普段は引っ込み思案な児童も、来校者からいただく言葉が大きな励みとなっています。自己肯定感や満足感の持てる心豊かな子供たちが増えるように、地道に活動しています。



来校者の言葉

- ・毎年、楽しみにしています。
- ・心のこもった葉ですね。実際に本に挟んで使っています。
- ・素晴らしいので、記念に額に入れて飾っています。
- ・素敵にできていますね。本当に、ありがとう。

②縦割り班による「気づき掃除」の実施

日常の縦割り班掃除の際、各役割分担をし、決められた掃除を終了した後に「気づき掃除」を設定しています。

「ここをもっときれいにしたい」「ここが汚れていたのを発見した」など、やりたいことを気付いて行動する時間としています。決められたこと以外に自分で見付け、意見を発表する。自分の考えを表現する、進んでしようとする、意欲につながっています。

「掃除ロッカーの裏が汚れている」「壁の下が汚れている」等、気付くことが多くなりました。

できたことや良かったことを清掃の振返りで表現させています。

③「健康カルタ」作成の取組

児童が考えたものを、お互いに「元気になる言葉」を「五・七・五」のリズムにしカルタとして掲示しています。機会をみて、昼休みや放課後にカルタとして遊びながら、相手を思いやる意識を高めています。



6 教職員の研修の実施

①アレルギー対応の研修

現在本校児童にエビペンを使用している対象者はいないものの、事前に周知し、いつでも誰でも対応ができるように校内研修を開催しました。

資料として「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」、日本学校保健会発刊のDVD「学校におけるアレルギーの疾患対応資料」等を用いました。

その後、練習用のエビペンを使って、実際の場面を想定した体験を行いました。エビペンを見るのが初めての方が多く、良い機会となりました。

今後は救急救命講習会などと連動し、校内での対応の訓練を検討していきます。

②薬の飲み方に関する共通理解の推進

アレルギーをもつ新入生の保護者との面談で、薬を飲む際の相談があり、薬の保管場所や薬を飲む時の見届け等の対応を検討しました。

全校児童に同じように対応することとし、教職員で共通理解を図りました。

実施してみると、薬などを飲んでいて子供が相当数いることが分かりました。また、飲み方についても、水を飲まずに薬を口に含んだり、一口しか水を飲まなかったりと、飲み方を知ることができました。上手な薬の飲み方について声掛けや便り発信しています。

7 まとめ

児童から体の痛いときや不調なときには、自ら声を掛けられ、こちらからも寄り添い支えることができるよう、日々の実践に努めています。

これからも、一人一人の子供たちの健康や命を大切にする健康意識の高揚を根幹としたいと思います。家庭や地域関係機関との協力を得て、保健室経営を進め、子供自身が実行していけるよう働き掛けていきたいと思います。